



はつとり あやな ちゃん
(6さい)

しろい ぶくを きた かんこしさんって とつても かつこいいな。わたしも かんこしさんになって びょうきのひとを かんびょうしてあげるの。



おひさま保育園のおともだち



さとう たかやくん
(6さい)

やきゅうが だいすき。テレビで やきゅうを みるのも すきだよ。おおきくなったら ファイターズにはいって やきゅうせんしゅに なりたいな。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと



ジャンボ滑り台などに使う水を作製中

世代を超えたつながりを大事にして
摩周ウインターフェスタ2010の実行委員長
有岡 永機 さん(39歳・鈴蘭)

会場に設けられた大きな氷の滑り台や、モニュメント。冬空を彩る花火や多彩なイベント。今回で4回目を迎える「摩周ウインターフェスタ」が、今年も2月13・14日の両日、商工会駐車場で開催されます。(5ページ参照)弟子屈の冬のイベントとして定着した感のあるウインターフェスタですが、始めるきっかけは何だったのでしょうか。――町内に冬のイベントがないというのが一つ。もう一つは、最近子どもたちが外で遊んでいるのを見かけないなど思っていたことです。自分たちが子どもの中で遊んだものだけじゃなく、そういった楽しみを子どもたちにといい思いからです。そして、観光地の弟子屈ですから、どうせなら観光客の方にも来てほしいね、そんなイベントができないか、というところから始まりました。

今年新しいイベントも取り入れ、より楽しみを増やしたとのこと。準備は最終段階を迎え、あとは本番を待つばかりになりました。有岡さんが思うウインターフェスタの「これから」とは、――まずは続けていくことが大切であり、大変でもあると思っています。中心となっている商工会青年部のメンバーは代替わりしていくし、イベントの内容も目的も変わっていくかもしれないけれど、それでも10年、20年と続いていってほしいと願っています。若い人を巻き込み、世代を超えたつながりを大事にして、ウインターフェスタを楽しんだ子どもたちが将来、開催しているようだといい。いつか地域の「伝統の祭り」となれるよう、長く続けていくつもりです。



弟子屈摩周湖民踊会
会長・加藤 ノブ子 さん
会員・15人



弟子屈摩周湖民踊会の皆さん
前列左から3番目が会長の加藤さん

皆さんは「民踊を」ご存じですか?民踊とは、地域の住民の間に自然発生的に生まれ、地域の地域から流入したりして、地域に定着し、住民が親しくを深めながら伝承する楽しい踊りのこと。この民踊に取り組んでいるのが、弟子屈摩周湖民踊会の皆さんです。



練習の様子

練習は週に一度、毎週月曜日に公民館に集まって行っています。会員さんの要望で、練習日は徐々に増えていったといえます。出席率が高いのが特徴で、毎回ほとんどの会員さんが集まるそう。「一度の練習で20曲ほどを踊ります。踊りを覚え、体を動かすことで、頭と体の健康にいいと思います。練習が終わった後の、会員さんの達成感のある表情がとてもいい」と話すのは、事務局の辻谷幸代さん。民踊の大会や講習会がたくさんあり、年間で40〜50曲も覚えるとのこと。皆さんの健康維持にも、一役買っているようです。

湖民踊会の皆さんです。結成は2000(平成12)年。今年でちょうど10周年を迎えます。きっかけは前年(1999年)、日本フォークダンス連盟の大会に弟子屈音頭がノミネートされ、静岡県熱海市で開催された大会に出場したこと。弟子屈から6人が出場し、1千200人の全国の方を前に、弟子屈音頭の指導を行いました。この大会に出場した6人が中心となって、翌年、会を立ち上げました。「寂れていく町の観光の振興のために」というのが結成の理由でした」と会長の加藤さん。印象深い思い出の一つが、2003年、弟子屈町100周年記念祭の一環で「ふるさとの民踊をたずねる旅弟子屈大会」が開催されたこと。全国各地から約600人が集まって、弟子屈音頭をはじめとした民踊を踊ったそうです。